

平成28年度第1回鹿沼市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成28年10月3日（月） 午後3時05分～午後4時10分

2 場 所 鹿沼市役所特別会議室

3 出席した委員

鹿沼市長	佐藤 信	教育委員長	鈴木 泉
教育委員長職務代行者	佐川 徹三	教育委員	中西 泉美
教育委員	齋藤 正	教育委員(教育長)	高橋 臣一

4 出席した事務局職員

総務部長	渡辺 克明	教育次長	田野井 武
総務課長	糸井 朗	教育総務課長	金子 信之
企画課長	袖山 稔久	教育総務課	齋藤 史生
総務課	能島 賢司	教育総務課	仁平 利恵
総務課	川田 孝郎		
企画課	鈴木 さくら		

5 傍聴者

なし

6 決定した事項

- (1) 今年度、教育ビジョンとは別に新たな教育大綱を策定する。
- (2) 大綱を「鹿沼市教育大綱（素案）」の形式で策定する。
- (3) 大綱に定める基本理念は、本日出された意見をもとに事務局において検討し、次回の会議（2月予定）で改めて協議する。

7 会議の概要

(1) 開 会（進行：糸井総務課長）

(2) 挨拶

ア 市長挨拶

教育委員の皆様には、お忙しい中、今年度第1回の総合教育会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。昨年6月に初めて開催した総合教育会議では、教育大綱の策定のほか、教育に関する様々な意見を交わすことができ、大変有意義なものであったと認識しております。

さて、本市では、人口の減少、高齢化・少子化の進展により、今後ますます厳しい財政運営の中で各種の施策を推進していかなければならない状況にあります。しかし、そうした状況であるからこそ、まちづくりの基本である「人づくり」、とりわけ、子どもの教育の質を落とすようなことがあってはならず、現在見直しを進めている鹿沼市総合計画においても、教育の充実は、本市にとって最も重要な施策の一つであると考えております。

本日は、新たな教育大綱について議論をしていただく予定ですが、本日の会議が、鹿沼市の未来を担う子どもたちの健全な成長と教育環境の充実に向けた、より有効な施策の推進に資するものとなることを心から期待いたしまして、挨拶とさせていただきます。

イ 教育委員長挨拶

教育委員会では、毎月開催される委員会において、提出議案の審議、教育長からの報告のほか、毎回各委員からの質問事項について意見交換を行うな

ど、委員と事務局職員との情報共有、教育に関する意識の共有化を図ってまいりました。また、学校現場に出向くなど、自らの目で現状を確認するなど、本市教育の発展のため、積極的に取り組んでいます。

近年の教育行政は、福祉や子育て、地域振興など一般行政との緊密な連携が重要になってきており、市長部局と教育委員会の相互の連携は、不可欠なものとなってきています。昨年度より、この「総合教育会議」が設置され、教育に関する市長との連携が強化され、直接御意見を頂戴する機会が得られることは、誠に喜ばしい限りです。

今後とも、鹿沼市民の教育行政の推進のため、御指導をお願いしたいと思います。

(3) 協 議

ア 新たな教育大綱の策定について

佐藤市長から、「鹿沼市教育ビジョン」とは別に新たな教育大綱を今年度中に策定することについて提案があった。

<市長の提案の内容>

本市における教育の大綱につきましては、昨年開催した鹿沼市総合教育会議において、現在の「鹿沼市教育ビジョン」を本市の教育大綱として位置付けることについて承認をいただき、「鹿沼市教育大綱」として策定いたしました。

このたび、教育ビジョンとの整合を図っている「第6次鹿沼市総合計画」の見直しを行うこと及び教育ビジョンの基本計画Ⅰ期が終了することから、教育ビジョンとは別に、本市の新たな教育大綱の策定を提案するものです。

策定に当たりましては、「第7次鹿沼市総合計画」及び教育ビジョンの基本計画Ⅱ期との整合を図りつつ、それらの計画の検討過程で寄せられた市民や教育に携わる方々の意見を参考にまいります。

今後、市長部局と教育委員会が適切に連携しながら今年度中の策定に向けて作業を進め、最終的には改めて総合教育会議を開催し、承認をいただいた上で策定したいと考えております。

事務局から、新たな教育大綱の概要について、配付資料に基づき、説明した。

<「今年度、教育ビジョンとは別に新たな教育大綱を策定すること。」に対する教育委員会の意見>

鈴木委員長 是非お願いしたい。

佐川職務代行者 教育ビジョンとの整合を図っていただきたい。

(中西委員及び齋藤委員から同意見である旨の発言あり)

市長から提案のあった「今年度、教育ビジョンとは別に新たな教育大綱を策定すること。」について、教育委員会が承認し、決定した。

<「大綱を『鹿沼市教育大綱（素案）』の形式で策定すること。」に対する教育委員会の意見>

鈴木委員長 この形式でよいと思う。期間が5年間なので、あまり長くする必要はない。

佐川職務代行者 現在見直しをしている総合計画及び教育ビジョンと整合がとれ

るよう内容を吟味していただきたい。

(総合計画の見直しの状況について、事務局から説明した。)

鈴木委員長 文部科学省では、「生きる力」を強調している。

齋藤委員 「郷土を愛する」というエッセンスをより色濃く入れていただきたい。

市長から提案のあった「大綱を『鹿沼市教育大綱(素案)』の形式で策定すること。」について、教育委員会が承認し、決定した。

次に、事務局から、新たな教育大綱に定める基本理念について、配付資料に基づき、説明した。

＜「大綱に定める基本理念」に対する教育委員会の意見＞

鈴木委員長 「生きる力」は、文科省も推しており、入れるべきだと思う。

佐川職務代行者 高齢社会では、子供の教育だけでなく、高齢者が生きがいを持てるような教育が必要。また、子どもには「生きる力」、「生き抜く力」のほか、道徳心を養う教育も必要だと思う。市長自身の思いも入った方がよいのではないか。

齋藤委員 学力の向上を目指していくという意味では、「確かな学び」を入れるべきだと思う。また、少子・高齢化の問題を抱える鹿沼市の子どもたちには、「郷土を愛する心」と「そこで生きる」ということを基本とする教育が必要。「生きる力」と併せて、これらのキーワードが入れられるとよい。

中西委員 「生きがい」というと高齢者をイメージしがちだが、子どもの「生きる力」「生き抜く力」も、結局は「生きがい」なのではないかと思う。子どもたちが「生きがい」を見つけられるような教育を目指していくべき。

鈴木委員長 複雑化する世の中で、子どもたちにはたくましく生きる力が必要。委員の意見を踏まえて、キーワードの検討をお願いしたい。

(市長の意見)

キーワードは、無理に文章化せず、「生き抜く力をつけるまち」など、一言で言える方がよいのではないか。例えば、ヨーロッパのとある町では、「紳士であれ」が教育目標。誰もが共通認識を持ちやすく、子どもに対しても「それは紳士のやることではない。」の一言で注意できる。短い言葉の方が分かりやすい。ただ、教育大綱の基本理念は、学校教育に限られないという点に留意する必要がある。

佐川職務代行者 早稲田大学の心理学の教授の話では、社会の方が子どもたちを追い込んでいるという。危ないからと外で遊ばせない、ほとんどの子どもが塾に通うなど、社会環境の変化が子どもたちの心に大きく影響している。学校教育だけでなく、やはり「生きがい」が大切。「生きがい」があれば自分の「生きる力」を育むことができる。「生きがい」がキーワードになるのではないか。

鈴木委員長 不登校が増えており、教育現場は大変厳しい状況。それを乗り越えるために、鹿沼市として芯を一本通すような基本理念を定めていただきたい。

高橋教育長 「生きる力」、「生きがい」、「郷土愛」など、それぞれ必要なも

のだと思う。教育大綱の基本理念なので、学校教育だけでなく、生涯学習も含めたキャッチフレーズにする必要がある。

(市長の意見)

総合計画の会議でも出た話だが、「花と緑と清流と笑顔あふれるやさしいまち」は、鹿沼を表す言葉として適しているものの、他の市町村でも通用してしまう。ほかとの違いを出すのはなかなか難しく、他市の基本理念を見ても、どこも似たような言葉が並んでいる。この中で言えば、倉敷市の「“From Kurashiki” が誇りとなるひとづくり」など、気の利いたフレーズが選べるといい。「人情味」という言葉がいいという話も出たが、教育と結びつくかどうか。

市長の提案である「大綱に定める基本理念」については、本日の出された意見をもとに事務局において検討し、次回の会議で改めて提案することで、教育委員会が承認し、決定した。

また、次回の会議は、総合計画との整合を図るため、来年2月とすることについて、教育委員会が承認し、決定した。

(4) その他

ア 教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定について

事務局から、教育委員会において策定を進めている教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定について説明した。

<「教育ビジョン基本計画Ⅱ期の策定」に対する意見>

鈴木委員長 なるべく早めに策定できるとよい。

佐川職務代行者 資料の行番号167に新たに「ユネスコ無形文化遺産の継承」とあるが、登録されたところでは、資料の整備や報告など、大きな負担が生じると聞いているので、Ⅱ期計画には、是非盛り込んでいただきたい。世界遺産に登録された群馬県の富岡製糸場のある富岡市では、部が設置され、3課が置かれた。

高橋教育長 教育ビジョンの検討委員会において、そうした意見をいただきながら、まとめていきたいと考えている。

齋藤委員 スクールバスとリーバスは、同じ時間帯に走り、どちらもガラガラの状況。いろいろな事情があるとはいえ、何億という税金が使われており、もっと有効に使えば、補助教員を増やすこともできる。住民の利便性や地域における子どもの教育について、再検討しなければいけない時期に来ていると思う。

鈴木委員長 ユネスコ登録については、現在、文化課のほか、観光交流課でも担当しているようだが、縦割りにならないよう一本化した方がよいのではないか。

市長 ユネスコ登録自体は、本来観光ではないので、文化課の担当だと思う。ただ、「これを機会に」ということで、どうしても観光面からの関わりが出てくる。

(5) 閉会